

皆野・長瀬ロータリークラブ

週報

- ◇例会日
- ◇例会場
- ◇事務所



第1・第2木曜日 12:30~13:30 第3・第4木曜日のいずれか 18:30~19:30
 長瀬レクリエーションホテル 養浩亭
 〒369-1305 秩父郡長瀬町長瀬1-4-46 養浩亭内
 Tel:0494-66-4134 / Fax:0494-66-4134 e-mail:minanaga@chichibu.net

UNITE
FOR
GOOD

よいことのために手を取りあおう

第1698回例会 令和7年7月31日(木)

【会長の時間】

畝 徳治

皆さん、こんばんは。今まで会長をやった時は謡曲、能の話をしてもらい、宴会の部で謡わせていただきました。今度は事前に説明をさせてもらうような形で進めさせていただきます。今回謡うのは、「みいでら」という曲の説明をさせていただきます。通しで謡うと50分掛かります。今年は9回に分けて謡わせていただきます。内容は親子の再会物語で、母親が行方不明になった息子を探して歩いて、出会う場所がみいでらです。滋賀県にある有名なお寺です。



大きく分けると、途中で中入りがあります。能では中入りがある曲が多いのですが、シテが謡うだけでも中入りが入ります。前半は、行方不明の息子が見つかりますようにという事で、清水寺でお祈りをする場面です。その中で、拝んでいるうちに霊に夢のお告げを受けて、みいでら行くと見つかるという事で、みいでらに行くと。中入りの前は清水寺の風景です。中入りの後は、みいでらで、愛称はみいでらで、本当の名前は園城寺です。このお寺の由来ですが、

「三井寺(園城寺):滋賀県大津市園城寺町にある天台宗の総本山の寺院。山号は長等山(ながらさん)。天智・天武・持統天皇の三帝の誕生の際に御産湯に用いられたという霊泉があり「御井の寺」と呼ばれていた。」今でも水は出ているそうです。

「段落1「南無や大慈(だいじ)大悲(だいひ)の観世音さしも草(ぐさ)とう所がありますが、これでは清水寺が分かりませんが、

「なほたのめしめぢが原のさせもぐさ わがよの中にあらんかぎりは」【新古今集】(私を頼みし続けなさい。たとえあなたがしめぢが原のさせもぐさのように、胸を焦がして思い悩むことがあっても。)の歌が清水観音の衆生済度の誓を述べた作と伝えられたところから。この歌は言い伝えの中で清水寺の観世音の事を指しているという事で、この歌が出てくると、観世音は清水寺の観世音だと分かるようです。そこでお願いいたしますと。

『一称一念(いっしょういちねん)南無阿弥陀佛と唱えること』枯れたる木にだにも。花咲くべくは～:衰えはてたものが再び栄える時を迎える・・だから、子供に再び逢えない筈がな

い。お願いの内容は子どもがいなくなったので、見つけさせてくださいという事です。

説明として、中入りの前は子どもがいなくて悩んでいる場面。暗い謡いかたになります。中入りの後は、ワキ、ワキツレが謡っていますが、「秋も半ばの暮待ちて。秋もなかばの暮待ちて。月に心や急ぐらん」満月の日で、月が昇るのを待つという事で、一言うたいます。ワキが名乗りますが、「これは江州(ごうしゅう)園城寺(おんじょうじ)の住僧にて候。又これにわたり候幼き人は。愚僧を頼む由仰せ候間。力なく師弟の契約をなし申して候。又今夜は八月(がち)十五夜名月にて候程に。幼き人を伴ひ申し。皆々講堂の庭に出で、月を眺めばやと存じ候」園城寺の庭と8月の十五夜の日であると。後半の所は、月見の楽しみの所です。後半は華やかな所で、前半は苦勞でという事です。

更に「枯れたる木にだにも。枯れたる木にだにも。花咲くべくはおのづから。いまだ若木の緑(みどり)子(こ)に。二度(ふたたび)などか、逢はざらん・二たびなどか逢はざらん。物語の中でも枯れ木にも花が咲くという事があるらしいですが、そういう事があるんだったら、自分も子どもに会わせてくださいと祈っているという事です。



「みいでら段落1 南無や大慈(だいじ)大悲(だいひ)の観世音さしも草(ぐさ)。

シテサシ 南無や大慈(だいじ)大悲(だいひ)の観世音さしも草(ぐさ)。さしも畏(かしこ)き誓ひの末。一称(いっしょう)一念(いちねん)なほ頼みあり。況してや此程日を送り。夜を重ねたる頼みのすえ。などかそのかひなからんと。思ふ心ぞ哀れなる

下歌 憐れみ給へ思ひ子(ご)の。行末何(なに)となりぬらん行末な(なに)となりぬらん

上歌 枯れたる木にだにも。枯れたる木にだにも。花咲くべくはおのづから。いまだ若木の緑(みどり)子(こ)に。二度(ふたたび)などか、逢はざらん・二たびなどか逢はざらん。「あら不思議や。少し睡眠(すいめん)のうちに。あらたなる霊夢を蒙りて候は如何に。あらあらがたや候。告にまかせて三井寺とやらんへ参り候べし (中入り)

ワキ・ワキツレ次第

秋も半ばの暮待ちて。秋もなかばの暮待ちて。月に心や急ぐらん

ワキ名ノリ

これは江州(ごうしゅう)園城寺(おんじょうじ)の住僧にて候。又これにわたり候幼き人は。愚僧を頼む由仰せ候間。力なく師弟の契約をなし申して候。又今夜は八月(がち)十五夜名月にて候程に。幼き人を伴ひ申し。皆々講堂の庭に出で、月を眺めばやと存じ候

三井寺(園城寺)

天智・天武・持統天皇の三帝の誕生の際に御産湯に用いられたという霊泉があり「御井の寺」と呼ばれていた。大慈(だいじ)大悲(だいひ)の観世音：京都東山の清水寺観世音を指す。なほたのめしめちが原のさせもぐさ わがよの中にあらんかざりは【新古今集】解釈(私を頼みし続けなさい。たとえあなたがしめじが原のさせもぐさのように、胸を焦がして思い悩むことがあっても。)この歌が清水寺観世音の衆生済度の誓を述べた作と伝えられたところから。

大慈(だいじ)大悲(だいひ)の観世音

京都東山の清水寺観世音を指す。なほたのめしめちが原のさせもぐさ わがよの中にあらんかざりは【新古今集】解釈(私を頼みし続けなさい。たとえあなたがしめじが原のさせもぐさのように、胸を焦がして思い悩むことがあっても。)この歌が清水寺観世音の衆生済度の誓を述べた作と伝えられたところから。



出席率
62.5%

